

主 題：クリスチャンとは ―神によって選ばれた者―

聖書箇所：エペソ人への手紙 1章4－5節

きょう私たちは“クリスチャンとは―神によって選ばれた者―”という題で、エペソ1：4－5をもとに学んでいきたいと思っています。皆さんは、クリスチャンとはどんな特徴を持った人たちですかと聞かれたら、何と答えられますか？自分のことをどのように相手に伝えますか？さまざまな答え方があると思いますが、何よりも一番明らかな点は、世の人々の特徴と全く違うということです。私たちの特徴を世の人々は持っていないということです。私は聖書からクリスチャンの特徴を四つ考えてみました。レジメにあるとおり、一つ目は、クリスチャンとは神によって選ばれた者たちです。二つ目、クリスチャンとは神によって救われた者たちです。そして三つ目は、クリスチャンとは神の子どもとされた者たちです。四つ目、クリスチャンとは天に国籍を持つ者たちです。私は、以上の四つをクリスチャンの特徴であると考えてみました。エペソ1：3からお読みします。（以下新改訳第二版による）

エペソ1：3－5

「3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。：4 すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。：5 神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。」

1. クリスチャンとは、その特徴

◇ クリスチャン

まず初めに、クリスチャンということばについて少し学んでみたいと思います。私たちが頻繁というか、毎日使っていることばですけれども、ギリシャ語は“クリスティアノス”ということばが使われています。このことばは、ギリシャ語の“キリストス”ということばの後ろにラテン語の“イアノス”ということばがくっついてできています。このラテン語の語尾のことばは、「～に属する者」という意味を持っています。英語は“クリスチャン”です。私たちが使っている新改訳聖書は、「キリスト者」と訳しています。ですから、その中身は「キリストに属する者」ということです。

この「キリスト者」ということばは、新訳では3回使われています。1カ所は使徒の働き11：26に「……弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。」と書かれています。アンテオケという場所は現在のシリアにあります。「キリスト者と呼ばれるようになった」ということですから、周りの人々が彼らをキリスト者と呼んだのです。ほかに、使徒の働き26：28とIペテロ4：16に「キリスト者」ということばが使われています。

2. 神によって選ばれた者 4－5節

① 選び

まず、私たちはこの「選び」ということについて少し学んでいきましょう。これは、J・I・パッカーという神学者が書物の中で述べたことばです。選びとは「天地創造の前から、神が墮落することが予知されていた人類の中から、イエス・キリストにあつて贖い、信仰へと至らせ、義と認め、栄光を与える者を選び出していたという神の主権的な恵み」のことですと。パウロはIIテモテ1：9で、「神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、」と述べています。また、ローマ8：29－30もぜひ後でお読みになってください。

a. 旧約におけるイスラエル民族の選び

申命記 7 : 6 - 8 には、イスラエルの民の選びのことが記されています。「:6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。:7 【主】があなたを恋慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。:8 しかし、【主】があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、【主】は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隸の家から、エジプトの王パロの手からあなたを贖い出された。」と書いてあります。イスラエルの民は神が愛した民であったと記されています。

b. アブラハムの選び

また、アブラハムの選びについて、ネヘミヤの 9 : 7 に「あなたこそ神である【主】です。あなたはアブラムを選んでカルデヤ人のウルから連れ出し、彼にアブラハムという名を与えられました。」と書かれています。このように、イスラエルの民の選び、またアブラハムの選びについて記されています。

② 選びの事実 4 節

私たちはきょう、このエペソ人への手紙 1 : 4 - 5 を通して選びについてもう一度学んでいきたいと思えます。この 1 : 4 には選びの事実が記されています。4 節は「すなわち」ということばで始まっています。それは 3 節の「天にあるすべての霊的祝福」を 4 節以下で詳しく述べているのです。3 - 14 節までが一つの段落になっていることに目を留めてください。選びは神の霊的祝福であり、その祝福が私たちクリスチャンに及んだということです。

a. いつ :

それではこの選びがいつなされたのかと言うと、みことばには「世界の基の置かれる前」とあります。この天地が創造される以前にということです。もちろん私たちが生まれる以前のことです。皆さんはこのことをどう理解されますか？有限な私たち人間の知識では理解不可能なことではないでしょうか？私たちが生まれる以前に、私たちがすでに選ばれていた。そしてこのことで、神のご計画がこの世に属するものではなくて、天に属するものであることがわかるのです。

b. だれが :

さて、だれが選んだのでしょうか？「神は」とあります。それは神の主権により、神の意志によるということです。イエス様は、ヨハネ 15 : 16 で弟子たちにこう語られました。「あなたがたがわたしを選んだわけではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。」と。わたしがあなたがたを選んだと、イエス様は弟子たちにも語られました。

c. だれを :

では神はだれを選んだのでしょうか？みことばは「私たちを」と記しています。それは第一義的にはパウロを含んだエペソの聖徒たちのことです。しかし、その適用はキリストを信じるすべての者たちに及んでいるのです。選ばれるのに値しない私たちを選ばれたとは、ますます私たちには考えも及ばないことです。そうではありませんか？

d. どのようにして :

そして、どのように神は選ばれたのか？みことばは「キリストのうちに」と記しています。この「うちに」と訳されていることばは、ギリシャ語の“エン”という前置詞です。これは、内側に含まれる時に使われます。ですから「キリストのうちに含まれる」ということであり、キリストにつながる者として、また、キリストの贖いによって救われる者としての意味を含んでいます。これが「キリストのうちに」ということです。

e. 目的 :

次は、選びの目的です。「御前で聖く、傷のない者にしようとされました」。ここで大切なことばが二つあります。

◇聖い：

一つは「聖」いということばです。ここで使われているギリシャ語のことばには、「異なる」とか「分離した」という意味を持った“ハギオス”が使われています。それはクリスチャンが世の人々と異なったものであり、そこには当然罪との分離が含まれています。それが「聖」いということばの内容です。

◇傷のない：

そして「傷のない」ということばの意味は、こういうことを表しています。神の御前にささげられる最上の供え物の状態を言い表していることばです。それは「欠点のない」、あるいは「完全なものとして」ということです。旧約のささげ物について、レビ記1：3にこう書かれています。「もしそのささげ物が、牛の全焼のいけにえであれば、傷のない雄牛をささげなければならない。」、また1：10には「……すなわち子羊またはやぎの中からなら、傷のない雄でなければならない。」と書かれています。傷のないささげ物として最上の供え物の状態を表しているのです。イエス様はこういうことばを述べられました。マタイ5：48です。「……あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」、こうイエス様は述べられました。

イ. 聖い生き方をするため

クリスチャンは、救われるためだけに選ばれているのではなくて、聖い生き方をするためにも選ばれていたのです。I ペテロ1：15－16にこう書かれています。「:15 あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。:16 それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない」と書いてあるからです。」と。

ロ. 良い行いをするため

また良い行いをするためにも選ばれていました。エペソ2：10には、「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。」とパウロは述べています。そして、それらの目標は、選ばれた者をキリストに似た者とするためです。II コリント3：18にはこう書かれています。「……栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」と。ローマ8：29には「……神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。」と書かれています。ここで書かれている「あらかじめ知っておられる人々」というのは、神の予知を言い表しています。そして「御子のかたち」とあります。それは外見の姿ではなくて、内面、霊的な意味です。それは御子は聖いお方であるということです。先ほどもお読みしましたが、I ペテロ1：15に「あなたがたを召してくださった聖なる方」、このようにペテロは述べています。そして「御子のかたちと同じ姿に」、これは内なる性質の同質性を言い表していて、聖い者とされるということです。そして「定められたからです」、それはキリストに似た者とするために選ばれたということです。

◇要点

これがエペソ1：4に書かれている選びの事実の要点です。

a. キリスト者は、神の霊的祝福という土台の上に置かれている

イ：天地創造の初めからキリスト者は神によって選ばれていたということ

ロ：恵みによって選ばれていたがゆえに、恵みによって救われたということ

b. キリスト者は、聖い生き方をする者として、選ばれ救われた

イ：御前で聖く、傷のない者（エペソ1：4）

ロ：キリスト者は聖さを求めて生活するもの（I ペテロ1：15－16）

③ 選びの内容 5節

そして1：5には、選びの内容、選びの本質が五つ述べられています。

a. 神の主権的意志による

まず、選びは神の主権的意志によることです。みことばは「神は、ただみこころのままに」と記しています。2017年度版の聖書には、「神は、みこころの良しとするところにしたがって」と書かれています。レジメには英語の聖書のことばも記しておきました。(according to the purpose of His will) パウロはローマ9：11で「神の選びの計画の確かさが、行ないにはよらず、召してくださる方による」、こう記しています。

b. 完全に有効である⇒選ばれた者はすべての人が確実に救われる

二つ目、選びは完全に有効であるということです。それはどういうことを言っているのかというと、選ばれた者は、すべての人が確実に救われるということです。みことばは、「イエス・キリストによってご自分の子にしよう」、このように書かれています。ヨハネはヨハネ1：12で、「……この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」と、またパウロはガラテヤ3：26で「あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。」と述べています。選びは完全に有効です。選ばれた者はすべての人が救われます。

c. 無条件である

三つ目、選びは無条件です。私たちが何かできることを神が予知していたから選んだのではないということです。私たちが何もできない者であることを神は知っていました。ですから選びはただただ神の愛によってです。その愛は、“にも関わらず”の愛です。Iヨハネ4：10でヨハネは「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し」と述べています。そうです。永遠の昔から私たちは愛されていたのです。

d. 選びは不変である

本質の四つ目は、選びは不変です。みことばには「あらかじめ決めておられ」とあります。それは前もって決めておられたということです。そして神はご自身の意志を変更されることはありません。私たちを選んだことを神は途中で変更されないのです。「あー、だれだれを選んだのは間違いだった」というようなことは絶対にはないのです。選びは不変です。神は途中で変えられることはありません。

e. 永遠の始まりの時から

五つ目、選びは永遠の始まりの時から定められていたのです。1：4で「世界の基の置かれる前から」と記されているのはそのとおりです。神はある人を恵みによって選び、その人を恵みによって救い、救われた人たちが御子イエス・キリストの性質に似た者となるようにと、前もって決めておられたのです。それは、神の主権的意志によって決定されたのです。

ペテロのことばを聞いてください。Iペテロ1：1-2にペテロはこう記しています。「1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、2 父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。」とペテロは述べています。そしてこの選ばれた者たちがどうなったのか、パウロはそのことをエペソ2：4-5でこう述べています。「4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、5 罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです—」。そうです。選ばれた者たちは主の恵みによって確実に救われるのです。

3. 選ばれていない人について

私たちはこのエペソ1：4-5を通して、「選び」を見てきました。みことばは選ばれていない人たちについても記しています。もっと的確に言うならば、自分は選ばれていないと思っている人たちのことです。ローマ9：18-24の中で、23節に「あわれみの器」とあります。これは神によって選ばれている者のことです。22節には、「滅ぼされるべき怒りの器」と書かれてあります。このことばは、直訳では「滅亡へと準備されている怒りの器」ということです。それは、選ばれていない者たちを表しています。

この9:18には「……神は、人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままにかたくなにされるのです。」と書かれています。それはすべて神の主権によるということを私たちに教えています。

① 考えなければならないこと

この選ばれていないと思っている人たちが考えなければならないことがあります。それはこういうことです。選ばれているのか、選ばれていないのか、私たち人間にはわからないことです。なぜなら何回も言っていますけれども、この選びは神の主権的恵みの行為です。救いを望んだ人たちは、すべての人が選ばれていたのです、すべての人が救われます。しかし、救いを望まない人たちは、自分の意志で救われなかったことを選択したのです。そして自分の意志に反して救われたい人はいません。だれかがこう言うかもしれませんが、「私は、救われたいと望みましたが、選ばれていなかったのだから救われなかったのです」、だれもこう言うことはできません。ひとりとして、そのような人はいないのです。救いを望んだ人はすべて救われます。なぜなら神によって選ばれていたからです。

② 人の責任

そして、この人たちには一つの責任があります。それは彼らが主イエス・キリストを受け入れる、そのことだけです。救いの福音を受け入れる、そのことだけです。エペソ1:13にこう書かれています。「13 またあなたがたも、キリストにあって、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。」。この人たちの大切な責任は主イエス・キリストを受け入れる、救いの福音を受け入れる、それだけです。

③ 選びの証明

もしこの中で、まだ救われていない方がおられましたら、私はこう伝えたいと思います。あなたは自分は選ばれていないと考えていたのではありませんか？あなたが選ばれていることは、あなたが主イエス・キリストを救い主として、自分の主として受け入れることによって明らかになります。このことを私はその方に伝えたいと思います。世界の基の置かれる前から、神によって選ばれていたという事実を知った今、私たちは、どんな理由があって私が選ばれたの？と思いませんか？この神の選びは、私たちにとってこの上もない不思議です。しかし今、私たちは確実に神の子どもです。私たちはまずこの事実を神に感謝しましょう。

4. キリスト者への勧め

そして選ばれ、救われ、今主イエス・キリストとともに歩んでいる皆さんへのみことばの勧めがあります。最後にそのことを見て、きょうのメッセージを終わりたいと思います。

① 神の栄光を現す

勧めの一つは、すべてのことを通して神の栄光だけを現していきましょう。

② 召しにふさわしい歩みをする

私たちに勧められている二つ目のことは、救われた者として、主によって召された者として、その召しにふさわしい歩みをしていきましょう。そして、その時の私たちの実際の生活での基準は、主に喜ばれることを選択するということです。それが私たちの実際の生活の中での基準です。

③ 福音を宣べ伝える

私たちに勧められている三つ目は、主の命令である福音を宣べ伝えていきましょう。その理由はこうです。私たちが出会うすべての人が神の選びの中に数えられている人かもしれないと、私たちは考えるべきです。私たちはそのことを考えて福音を宣べ伝えていきましょう。

きょう私たちは神の選びについて学んできました。クリスチャンとは、神によって選ばれた者たちです。その選びは事実であり、またその選びの内容をみことばから見てきました。ぜひ皆さん、私たちの選びが偶然ではなく、神の主権的意志によってもたらされたということをもう一度しっかり覚えましょう。